

県中学駅伝

全国大会予選を兼ねた熊本県中学校駅伝大会（男子第70回、女子第38回）は7日、天草市のあましんスタジアムを発着のコースで行われた。男子（6区間18⁺）は松橋が最終6区で逆転して3連覇。55分35秒で

14度目の優勝を飾った。女子（5区間12⁺）は松橋が2区でトップに躍り出て独走。41分15秒の大会新記録で2年連続15度目の栄冠に輝いた。
【1面参照】
男子の松橋は、3区5位から追いつけた。4、5区で首位との差を詰め、15秒差の3位でたすきを受けた6区の松下寛永が8分55秒の区間新記録でひっくり返した。2位は米野岳、3位は銅だった。

女子の松橋は、22秒差の2位で走り出した2区の川崎杏瑞が区間新の快走を見せた。2位に17秒差をつけると、3区の村田侃子も区間新で差を広げた。2位は3人が区間1位だった銅ヶ丘、3位は山鹿だった。男女の優勝チームは12月14日に滋賀県野洲市である全国大会に出場する。男女の上位2チームは11月29日、長崎県諫早市で開かれる九州大会に臨む。（渡邊邦、山下雅文）

男子3年連続 松橋底力発揮 女子2年連続

男子の松橋は序盤の劣勢を総合力でね返し、3年連続の栄冠を手にした。区間新記録の快走で2人を抜き、先頭でゴールに飛び込んだ1年生の松下寛永は「楽しんで走ることができた」。余裕たっぷりの表情で振り返った。
4区にたすきが渡った時点で先頭と31秒差の5位だった。「トップで来るかな」と思っていたと稲田斗真（3年）。すぐに「やるしかない」と走り出す。左足のアキレス腱（けん）炎症で地区大会を走れず状態は万全ではなかったが、区間2位の走りでは3位に押し上げた。5区の小田原航聖（2年）も下り坂でスピードに乗ると、2位争いを繰り広げ、トップと15秒差の3位でつないだ。

最終区 1年生が逆転

「ラスト頼むー」。小田原の声を背に、松下は冷静に前の2人を追った。序盤のアップダウンは上りは腕の振り、下りは足、残りの1⁺で前の2人を捉える。先頭の米野岳に並ぶと100ほど並走し、相手の息遣いを観察。「いけそう」と判断して一気にスパートし、そのまま突き去りした。
寺本洋一監督は「全員が頑張り最後の松下の走りにつながった」とゴール直後の松下を抱き締めた。昨年の全国大会は7位入賞。この日、2区で5人を抜いた3年の銅田聖仁は「全員で協力して、次は絶対に全国制覇する」と高らかに宣言した。

（山下雅文）

女子の松橋は、2区の川崎杏瑞（2年）と3区の村田侃子（3年）が連続区間新で主導権を握って2連覇。ここまで2位に46秒差をつくり、チーム内に広がっていたオーダー変更の不安を打ち消した。寺本洋一監督も「優勝への強い気持ちで表れた走りだった」とたたえた。
1区に予定していた村田主将が5日前に発熱し、大幅にオーダーを変えた。大事な1区を任せられた坂田遥香（2年）は銅ヶ丘の先行を許したものの、粘って22秒差の2位で逆襲をお膳立てした。
2区は唯一予定通りだった川崎。10月の宇城中体連大会で区間記録を更新した実力者は、「今までで最高

区間新リレー 主導権

の状態。私が必ず抜き返す」と奮起。残り800mで銅ヶ丘をかわし、まだまだ差を広げる」とペースを上げて、17秒差にリードを広げてたすきを渡した。
3区の村田主将も波に乗った。1⁺地点で「沿道の声で聞こえ、後ろと差が縮まってるのが分かった」とペースアップ。残り500mでスパートをかけて勝利を決定した。4区の中根利桜（2年）と5区木下芽依（3年）も安定した走りだった。
昨年の全国大会は一時3位から順位を落とし6位。村田主将は「一人一人がタイムをまだ伸ばせる。課題を修正して日本一になりたい」と意気込んだ。（渡邊邦）



男子6区で先頭に立つ松橋の松下（中央）
＝天草市（岩崎皓太）



女子第2中継所、松橋の3区村田（左）に
トップでたすきを渡す2区川崎
＝天草市（岩崎皓太）